

赤祖父ため池

(あかそぶためいけ)



全景



女人夫による搗き固め作業



円筒分水槽

ため池の概要

ため池の所在地

富山県 南砺市

ため池の特徴

赤祖父ため池は、日本の稲作文化を代表する農村風景、砺波平野の散居村の眺望と豊かな自然に囲まれた美しい景観を持つため池です。

この地域では、昭和初期まで干ばつの年には水争いが絶えなかったことから、昭和7年にため池の築造が始められました。しかし戦時の労働力不足から工事は進まず、昭和20年の完成までには13年の歳月と延べ13万5千人を要し、特に堤体の搗き固め作業には女人夫7800人が動員されました。

ため池が完成し、また全国的にも珍しい円筒分水槽によって人手によらない公平な分配が可能となったことから、長年の水争いは解消されました。

その水は、現在も砺波平野の水田を潤しています。また、防火や消流雪のための生活用水や地域環境保全用水としても利用されています。

赤祖父ため池には、ヘラブナ、鯉、マブナ、ワカサギ、モロコなどが生息し、また、様々な野鳥やニホンカモシカ、うさぎ、狸などの動物、トンボ、ホタル、蛙など日本在来の生物が多数生息しています。

「ふれあいヘラブナ釣り大会」や「つばきの郷赤祖父夏祭り」など様々な行事が毎年開催され、一年を通じ地域の人々に癒し・憩いの場として親しまれています。

関連情報